

2014年3月期 決算説明会

ウシオ電機株式会社

2014年5月9日

＜免責事項＞本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

*本資料の記載は、切捨てによる億円単位で表記しております。

USHIO

Lighting—Edge Technologies



Thank you
50th Anniversary

- I. 2013年度通期業績概況
- II. 2014年度業績予想
- III. 中期計画
- IV. 中期計画参考資料
- ※ 決算補足資料

今回の決算発表のポイント

**連結売上高、前年比10.0%増の1,578億円
連結営業利益は、前年比59.7%増の121億円の増収増益決算。**

装置事業

映像装置

シネマ用販売が減収となったものの、一般映像用途などシネマ用途以外の販売が好調。

光学装置

電子部品用露光装置の販売が伸び悩んだことと、露光用EUV光源の事業縮小のため微減収。液晶パネル製造用光配向装置の販売は本格化。

光源事業

放電ランプ

露光用UVランプは堅調、シネマプロジェクタ用クセノンランプが高シェアを維持し、引き続き好調に推移。

ハロゲンランプ

OA用途が高シェアを背景に好調。

- 今後の業績向上、業容拡大につながる新技術・新製品の研究開発投資を積極的に推進し、対売上高比率は5.7%。
- 配当は26円（創業50周年記念配当で4円増配）

業績サマリー

(億円)	FY12	FY13	YoY		FY12	FY13	YoY	
	通期累計	通期累計	増減	%	4Q	4Q	増減	%
売上高	1,434	1,578	+143	+10.0	376	439	+62	+16.5
営業利益	75	121	+45	+59.7	21	36	+14	+67.3
営業利益率 (%)	5.3	7.7	+2.4P	-	5.8	8.3	+2.5P	-
経常利益	105	159	+53	+50.9	42	37	▲5	▲12.2
当期利益	71	107	+36	+50.5	40	15	▲25	▲61.8
EPS (円)	54.57	82.19			31.08	11.89		
為替レート (円)								
USD	83	100			93	103		
EUR	107	135			122	140		

為替による通期の影響額 (億円)	売上高	営業利益	経常利益
対 USD	10	2	2

業績サマリー 《四半期比較》

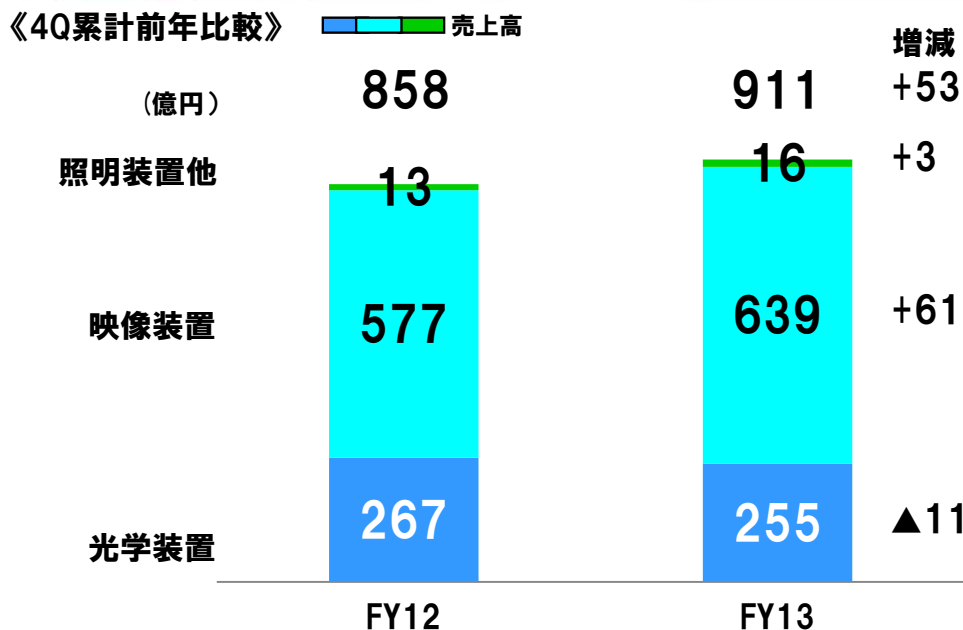
(億円)	1Q	2Q	3Q	4Q	QoQ	
					増減	%
売上高	354	402	381	439	+57	+15.1
営業利益	22	35	26	36	+9	+37.9
営業利益率 (%)	6.4	8.8	6.9	8.3	+1.4P	-
経常利益	34	42	44	37	▲7	▲16.2
当期利益	30	21	40	15	▲25	▲61.7
EPS (円)	23.28	16.06	30.94	11.89		
為替レート (円)						
USD	99	98	102	103		
EUR	130	131	140	140		

セグメント別 売上高、営業利益、営業利益率

(億円)		FY12	FY13	YoY		FY12	FY13	YoY	
		通期累計	通期累計	増減	%	4Q	4Q	増減	%
装置事業	売上高	858	911	+53	+6.2	222	258	+35	+15.8
	営業利益	11	25	+13	+119.1	3	▲1	▲4	-
	営業利益率 (%)	1.3	2.8	+1.4P	-	1.4	▲0.7	▲2.1P	-
光源事業	売上高	543	635	+92	+17.0	145	169	+24	+16.6
	営業利益	61	93	+31	+51.5	19	38	+18	+95.8
	営業利益率 (%)	11.4	14.8	+3.4P	-	13.3	22.4	+9.1P	-
その他	売上高	32	30	▲2	▲7.6	8	11	+2	+35.1
	営業利益	1	0	▲0	▲29.2	0	0	▲0	▲33.5
	営業利益率 (%)	3.4	2.6	▲0.8P	-	2.8	1.4	▲1.4P	-

注：売上高は外部顧客への売上高を記載、営業利益率は外部顧客売上高に対する営業利益率

装置事業セグメント概況



映像装置

YoY、QoQともに、シネマ用は微減収となったものの一般映像は増収。

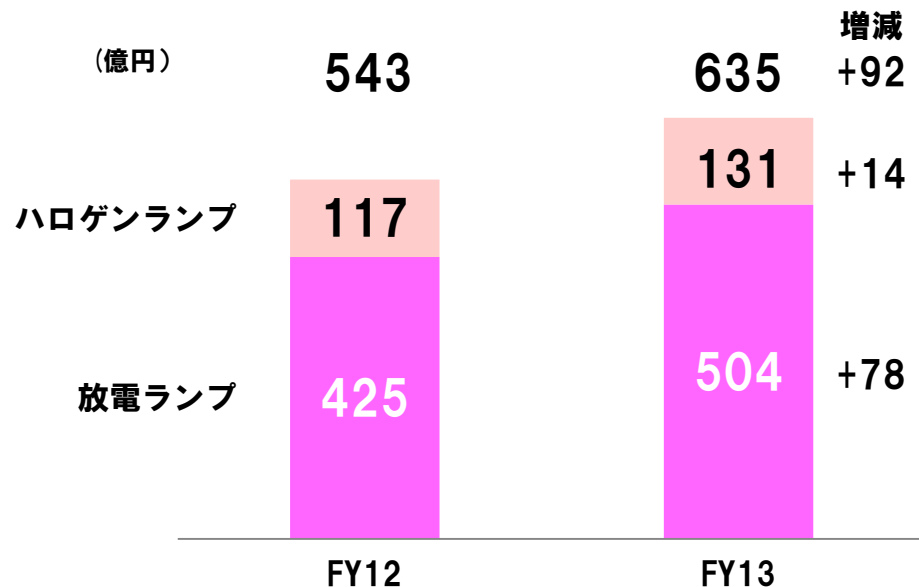
光学装置

2Q以降、光配向装置の出荷本格化。YoYでは電子部品用露光装置の投資が弱含んだことと、EUV事業の縮小により減収。QoQでは季節要因により検収が集中し、大幅増収。

《4Q累計前年比較》 (億円)		FY12 通期累計	FY13 通期累計	YoY	《4Q直前四半期比較》 (億円)		3Q	4Q	QoQ
売上高	映像装置	577	639	+61	売上高	映像装置	171	156	▲15
	光学装置	267	255	▲11		光学装置	37	94	+56
	照明装置他	13	16	+3		照明装置他	3	7	+4
合計		858	911	+53	合計		212	258	+45

光源事業セグメント概況

《4Q累計前年比較》 売上高



放電ランプ
YoY、QoQいずれも、シネマ用クセノンランプ、データプロジェクタ用ランプ、UVランプなどが増収。

ハロゲンランプ
YoYではOA用、ヒータ用などが増収。

《4Q累計前年比較》 (億円)	FY12	FY13	YoY	《4Q直前四半期比較》 (億円)	3Q	4Q	QoQ
	通期累計	通期累計			売上高	売上高	
売上高 放電ランプ	425	504	+78	売上高 放電ランプ	130	135	+5
ハロゲンランプ	117	131	+14	ハロゲンランプ	32	33	+1
合計	543	635	+92	合計	162	169	+7

注：売上高は、外部顧客への売上高を記載

- I. 2013年度通期業績概況
- II. 2014年度業績予想**
- III. 中期計画
- IV. 中期計画参考資料
- ※ 決算補足資料

2014年度業績予想

(億円)	FY13 (実績)	FY14 (予想)	YoY (増減)	2Q/FY14 (予想)
売上高	1,578	1,700	+121	780
営業利益	121	140	+18	55
営業利益率 (%)	7.7	8.2	+0.6P	7.1
経常利益	159	160	+0	66
当期利益	107	110	+2	50
EPS (円)	82.19	84.03	+1.84	38.20
ROE (%)	6.0	5.7	▲0.3P	2.7
配当 (円)	26	24	▲2	-
配当性向 (%)	31.6	28.6	▲3P	-
設備投資額	78	80	+1	-
減価償却費	50	55	+4	-
研究開発費	89	105	+15	-
為替レート (円)				
USD	100	100	-	100
EUR	135	130	-	130

サブセグメント別 売上高予想

(億円)		FY13 (実績)	FY14 (予想)	YoY (増減)
装置事業	映像装置	639	670	+31
	光学装置	255	291	+36
	照明装置他	16	24	+8
	小計	911	985	+74
光源事業	放電ランプ	504	530	+25
	ハロゲンランプ	131	140	+9
	小計	635	670	+35
その他	産業機械・その他	30	45	+15
合計		1,578	1,700	+122

主なサブセグメント別 事業予想

装置事業 +8%	映像装置 +5%	<ul style="list-style-type: none"> • DCP販売台数は、20～30%減少 • 一般映像事業（マネジメントサービス含む）の拡大 • 新シネマ事業（シネマオーディオ事業等）の成長
	光学装置 +14%	<ul style="list-style-type: none"> • 高精細中小型液晶パネル向け光配向装置の拡販 • TV用大型液晶パネル向け製造装置の販売 • センサー、MEMS用などUXシリーズの販売は堅調 • 直描装置、2.1D/2.5D/3D用など露光装置の製品開発を推進
光源事業 +6%	放電ランプ +5%	<ul style="list-style-type: none"> • UVランプ関連の設備稼働率は引き続き高水準で推移し販売も堅調の見込み • シネマ用クセノンランプ、データプロジェクタ用ランプの需要は堅調に推移 • 引き続き、光源事業拡大に向け、固体光源等の新規製品開発と既存光源の新規用途開発を推進
	ハロゲンランプ +7%	<ul style="list-style-type: none"> • OA用および産業用ハロゲンランプも底堅く推移の見込み

※増加率は対FY13

- I. 2013年度通期業績概況
- II. 2014年度業績予想
- III. 中期計画**
- IV. 中期計画参考資料
- ※ 決算補足資料

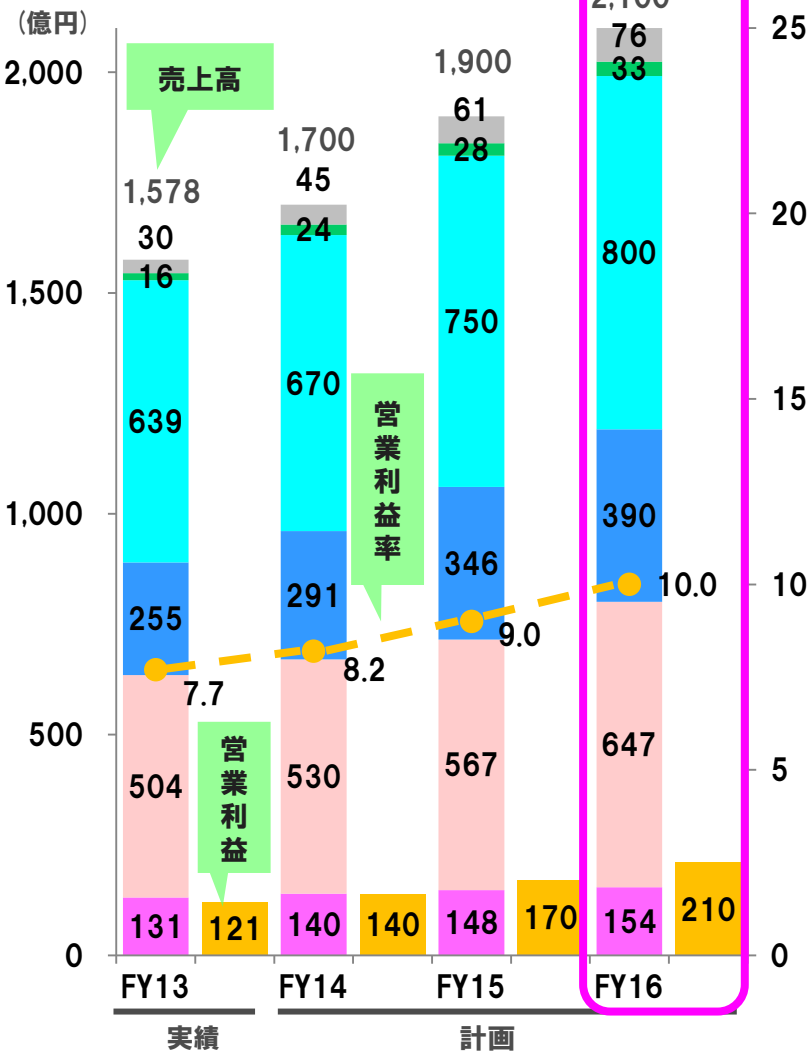
2016年度（2017年3月期）達成目標

売上高	2,100億円	（1,578億円）
営業利益	210億円	（121億円）
営業利益率	10%	（7.7%）
ROE	8% 目途	（6.0%）

※（ ）は2013年度実績

中期計画 セグメント別売上高

■ ハロゲンランプ ■ 光学装置 ■ 照明装置他
■ 放電ランプ ■ 映像装置 ■ 産業機械・その他



セグメント	サブセグメント	FY16 売上高 (計画)	3年間の		CAGR (%)
			増加額	成長率 (%)	
装置事業	映像装置	800	+161	25.2	7.8
	光学装置	390	+135	52.9	15.2
	照明装置他	33	+17	106.3	27.3
	小計	1,223	+312	34.2	10.3
光源事業	放電ランプ	647	+143	28.4	8.7
	ハロゲンランプ	154	+23	17.6	5.5
	小計	801	+166	26.1	8.0
その他	産業機械・その他	76	+46	154.9	36.6
合計		2,100	+522	33.1	10.0

	FY16 (計画)	3年間の増減	3年間の成長率 (%)
営業利益 (億円)	210	+89	73.4
営業利益率 (%)	10.0	+2.3P	-

中期計画 主なサブセグメント別 事業環境予測と主たる取組

装置事業 +31.7%	映像装置 +24%	<ul style="list-style-type: none">・小型機ソラリアによりシェアを維持。新シネマ事業（シネマ オーディオ「Christie Vive Audio」事業など）を拡大・映像の用途拡大による一般映像事業の成長・NOCなどのマネージドサービスやレンタル事業の継続的拡大
	光学装置 +46.4%	<ul style="list-style-type: none">・光配向装置の車載用や普及型スマホ用液晶パネルへの用途拡大・スマホ・タブレット関連市場の継続的成長によるFC-CSP用露光装置の需要増（UX5,直描）・モバイルの省電力化、処理スピード高速化などに伴うパッケージ市場の需要拡大による2.1D/2.5D/3D用をはじめとする露光装置の需要拡大（UX7）・ウェアラブル、自動車関連などの半導体市場の成長に伴う関連する露光装置の需要拡大（UX4）・独自性と収益性を追求したメディカル事業の推進
光源事業 +24.8%	放電ランプ +27%	<ul style="list-style-type: none">・品質の維持向上による高シェア維持・固体光源事業の開発促進及び製品化を推進・既存光源の新用途開拓と製品化を推進
	ハロゲンランプ +16.4%	<ul style="list-style-type: none">・OA用の高シェア維持・自動車産業用途など、新用途展開

- I. 2013年度通期業績概況
- II. 2014年度業績予想
- III. 中期計画
- IV. 中期計画参考資料**
- ※ 決算補足資料

1. 装置事業

- (1) 映像装置
 - a. Christie Vive Audio
 - b. 一般映像

- (2) 光学装置
 - a. 大面積露光装置UXシリーズ
 - b. 光配向装置
 - c. バイオメディカル

2. 光源事業

- (1) 固体光源
 - a. レーザシネマプロジェクタ

- (2) 既存光源の新規用途開拓
 - a. UV光による水殺菌と脱硝

CHRISTIE® VIVE AUDIO

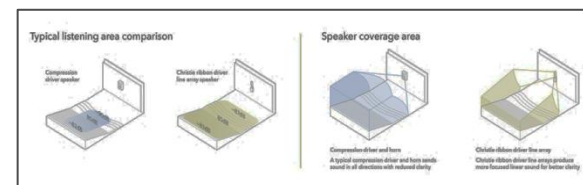


製品構成

スピーカ、アンプ、プロセッサ

特長

1. どの座席にも、同じレベルの音量が届く。
2. 大音量でも耳にやさしい。
3. 臨場感にあふれ没入感を楽しめる。



✓ 観客のニーズの変化

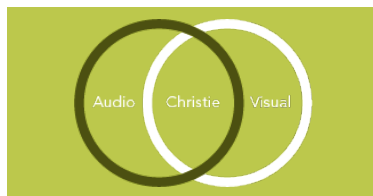
映像にリアルさを求める3D,4Kの時代



映像+音響の時代へ

✓ クリスティ・ヴィーヴ・オーディオの強み

ドルビーの画期的な最新プラットフォーム
Dolby Atmosに準拠する音響システム



Complete
the experience

✓ 導入

Krikorianシアター (LA, USA) ほか



映像装置 b. 一般映像

✓ MicroTiles

台数：39x8=312タイトル
ロケーション：
ロリアル社パリ本社ロビー
(英国、独にも設置予定)



✓ Digital Signage

ロケーション：
メルセデスベンツワールド (UK)



✓ Simulator

ロケーション：Sim JET
Training Systems (豪州)



✓ Projection Mapping

台数：30台
ロケーション：
中国上海浦東発展銀行



✓ Virtual Reality

ロケーション：
ウエスタンオンタリオ大学
解剖学教室 (カナダ)



光学装置 a. 大面積露光装置UXシリーズの製品ラインナップと用途

Large-field Stepper



次世代 2.5D/3D
インターポーザ向けステッパ
UX7-3Di



高精細プリント基板製造向け
ステッパ
UX5 Series

Direct Imaging System



高精細 FC-BGA 製造用
ダイレクト・イメージング装置
UDI Series

Full-field Projection



大面積一括投影露光装置
UX4 Series

FC-BGA

FC-CSP

WL-CSP

TSV

三次元実装

ウェーハバンピング

部品内蔵基板

モジュール基板

WL-CSP

MEMS

LED チップ

パワーデバイス

水晶振動子

光学装置 b. 光配向装置

市場トレンド：タッチパネル機能、広視野角、大手スマートフォンメーカーの動向

液晶パネルの トレンド

- ✓ IPS/FFSモードが主流に
- ✓ 省エネ
- ✓ 高コントラスト
- ✓ 高精細化

液晶パネルの3大技術課題

コストダウン

部材費の圧縮
工程の簡素化
歩留まり向上

画質改善

高精細化
コントラスト向上
応答速度向上

環境負荷 低減

TV消費電力の低減
工場電力負荷の低減
有害物質の削減

これらの課題を
同時に解決できるのが
ウシオの光配向装置

ウシオの光配向装置の強み

主要部分を 全て自社開発

ランプ、ランプハウス、
ステージ、
光学部品など

USHIO
シェア
80~90%

15年以上の 開発実績

ノウハウ、裏づけ
DATA量産実績、
特許、Panel材料
メーカーとの協業

3大性能の 圧倒的技術優位

露光量
(TACT)
消光比
偏光軸ムラ

光学装置 C. バイオメディカル事業

- ✓ 「光治療・光機能化」と「バイオ測定」事業に集中
- ✓ 「光治療・光機能化」製品・・・新たなビジネスモデルの構築
- ✓ 「バイオ測定」製品・・・試薬開発・製造拠点を集約・整備
- ✓ 世界市場をターゲットとした販売戦略

光治療・光機能化製品



セラビームUV308
(紫外線皮膚治療器)



セラビーム
スーパーオッセオ
(歯科用インプラント用)

※新たなビジネスモデルを構築予定

バイオ測定製品



ポイントリーダー
(ヒト用血液分析)



ポイントリーダーV
(動物用)



オンサイト
微量分析キット
(違法薬物など)



試薬開発の新開発拠点 (川崎市)

固体光源 a. レーザシネマプロジェクタ

2014

- ✓ 2014年中に北米で世界初の商業用映画館における4k レーザプロジェクタの設置を予定（業界初FDA認可を取得済み）



2013

- ✓ 2013年3月 業界初のレーザプロジェクタによる3D映画の商業上映に成功



2012

- ✓ 72000ルーメンのデモ上映に成功
- ✓ レーザプロジェクタのデモに初めて成功

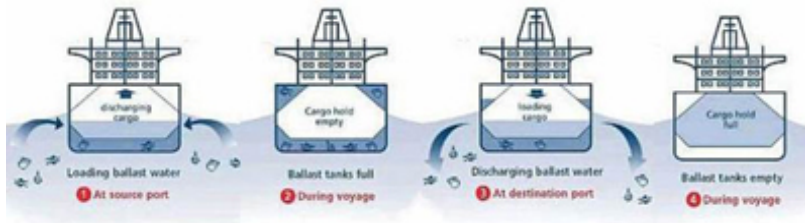


既存光源の新規用途開拓 a. UV光による水殺菌と脱硝

✓ 既存光源を新規アプリケーション（ライフサイエンス分野）に適応した事例

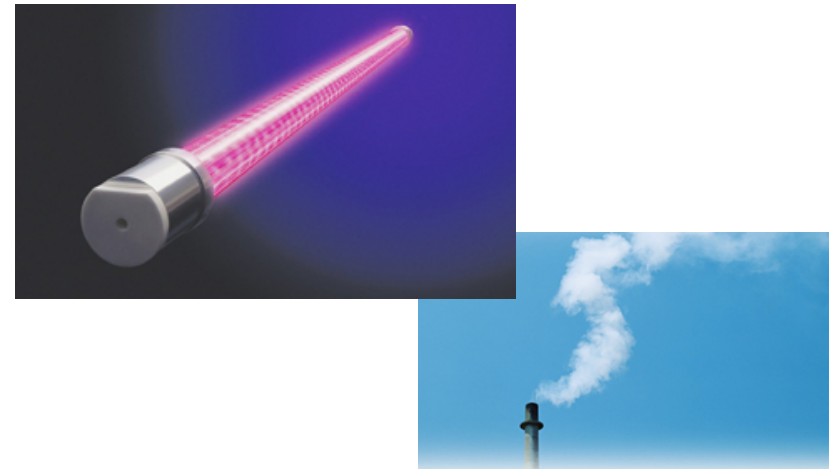
1. UV光による船舶用バラスト水殺菌

複数の海外大手造船メーカーにおいて、船舶バラスト水UV殺菌用ランプと電源が採用。2017年から船舶のバラスト水処理が国際的に規制され、義務付けられることとなり、市場拡大が期待できる分野。



2. VUV光によるNOx分解技術

岐阜大学、アクトリー社と共同で、世界初の常温かつ無触媒でNOxを分解できる「VUV直接脱硝」技術を開発。製品化をめざし開発中。
(2013.10.29 プレスリリース)

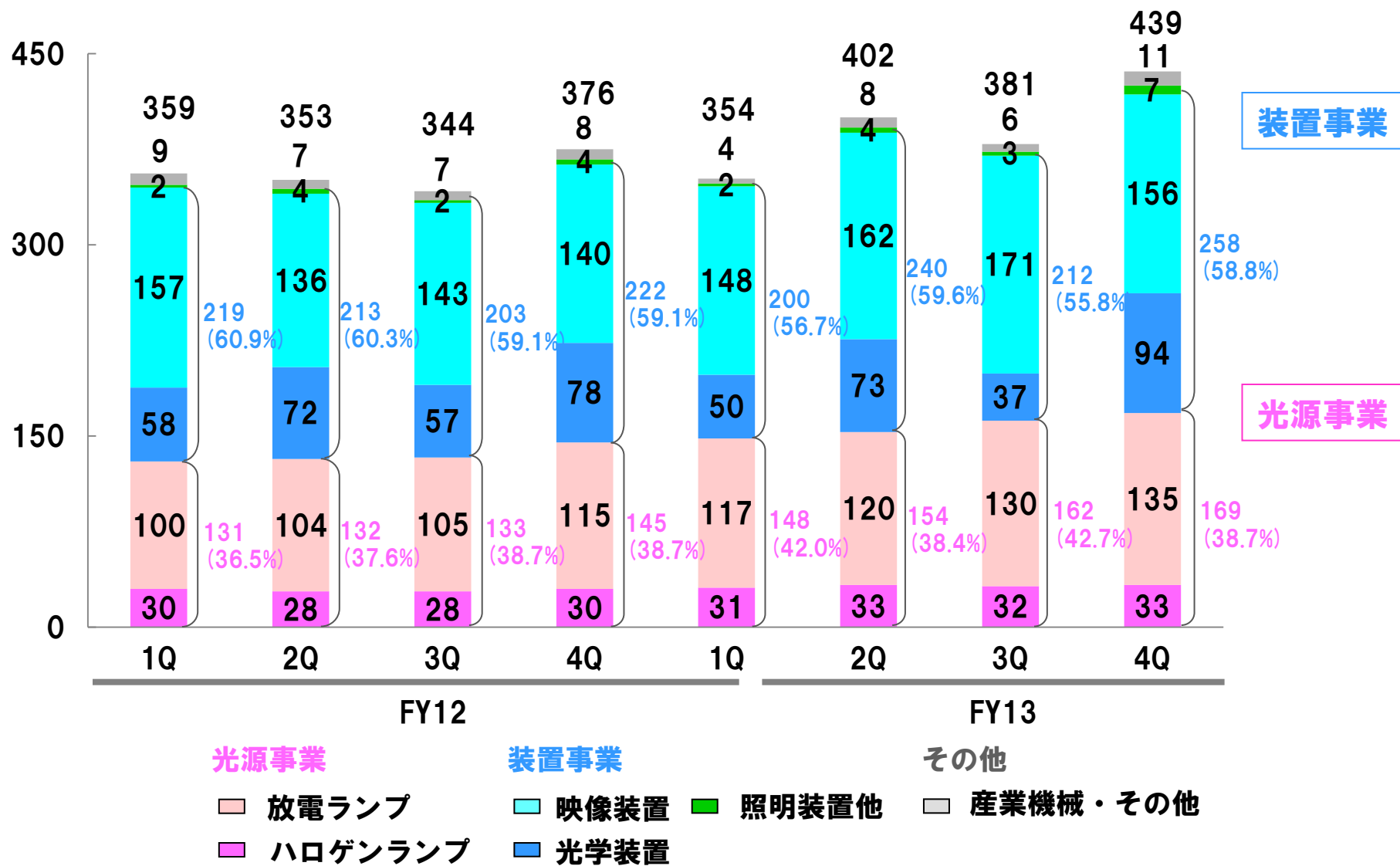


- I. 2013年度通期業績概況
- II. 2014年度業績予想
- III. 中期計画
- IV. 中期計画参考資料
- ※ **決算補足資料**

通期予想・実績比較

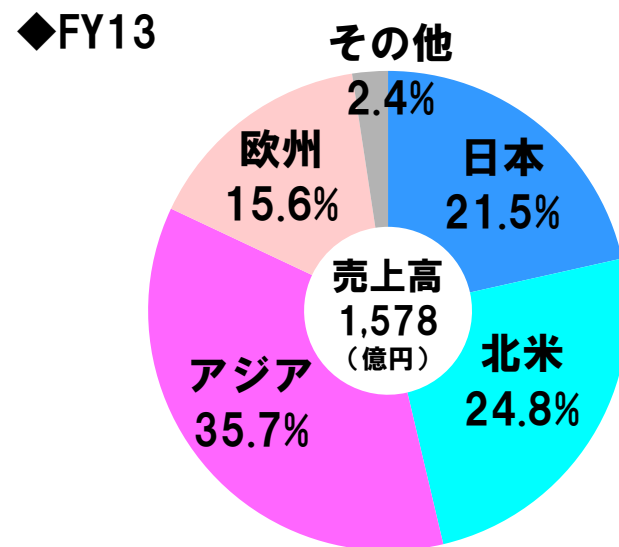
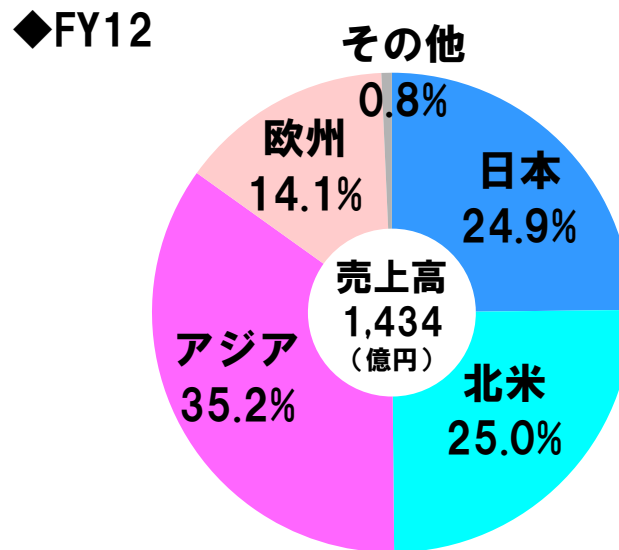
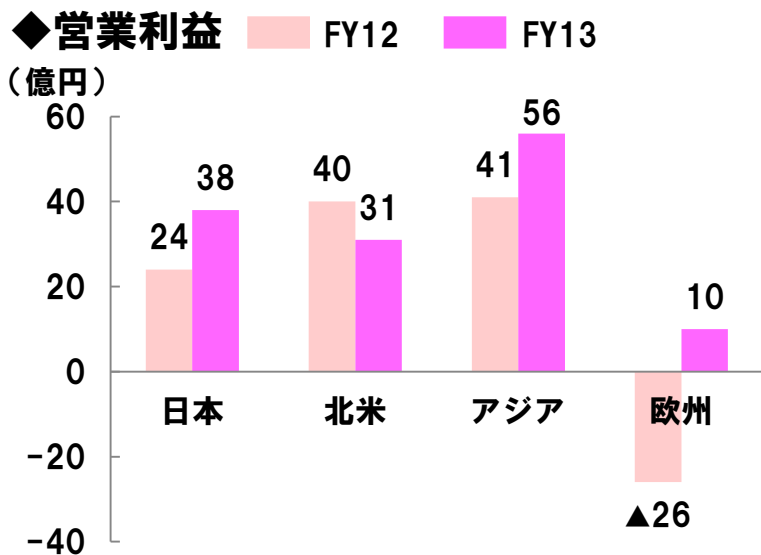
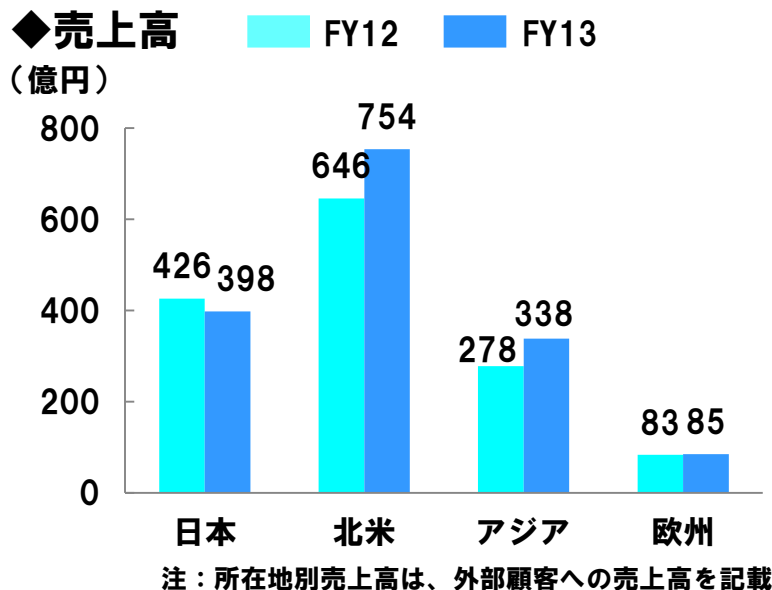
(億円)	FY13 (予想)	FY13 (実績)	YoY (増減)
売上高	1,600	1,578	▲21
営業利益	125	121	▲3
営業利益率 (%)	7.8	7.7	▲0.1P
経常利益	145	159	+14
当期利益	100	107	+7
EPS (円)	76.26	82.19	+5.93
ROE (%)	5.6	6.0	+0.4P
配当 (円)	22	26	+4
配当性向 (%)	28.8	31.6	+2.8
設備投資額	88	78	▲9
減価償却費	57	50	▲6
研究開発費	93	89	▲3
為替レート (円)			
USD	90	100	-
EUR	120	135	-

サブセグメント別売上高



所在地別損益 《通期累計》

海外売上高比率 《通期累計》

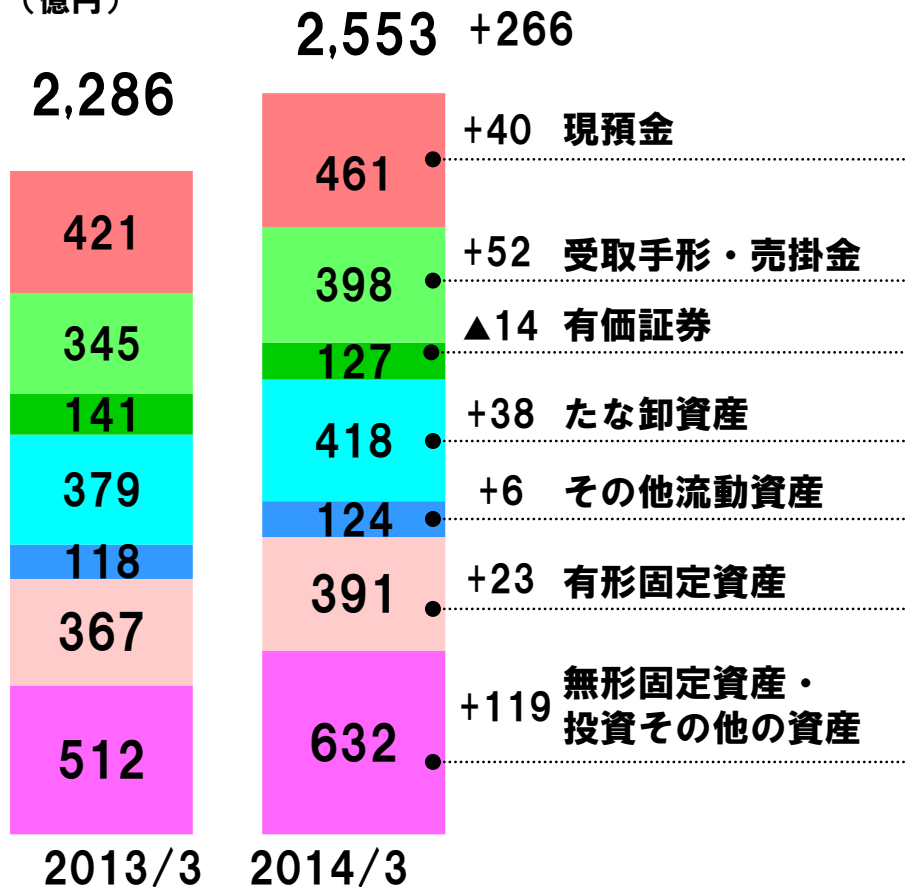


営業外収支《通期累計》

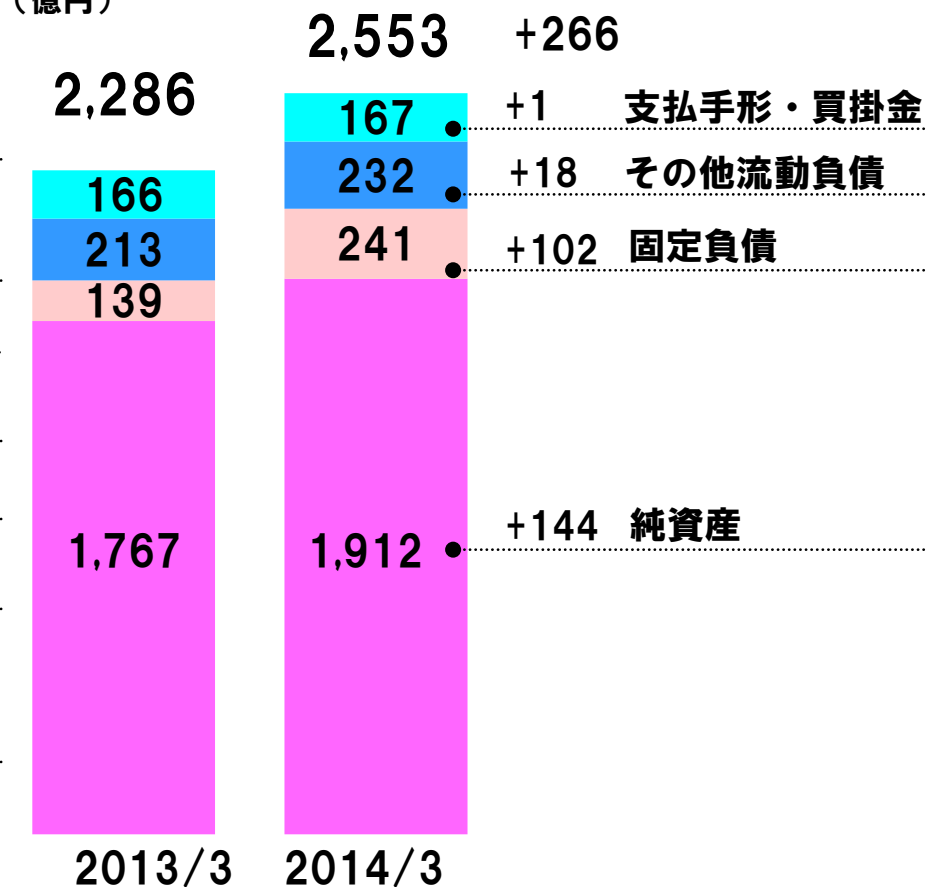
(億円)	FY12	FY13	YoY
営業外収益	35	43	+8
受取利息	4	6	+1
受取配当金	9	9	+0
投資有価証券売却益	9	1	▲7
為替差益	2	16	+14
売買目的有価証券運用益	4	2	▲1
その他	5	6	+1
営業外費用	5	5	▲0
支払利息	2	2	+0
貸倒引当金繰入額（長期）	1	-	▲1
その他	2	3	+1
営業外収支	29	37	+8

BS内訳

◆資産 (億円)



◆負債・純資産 (億円)



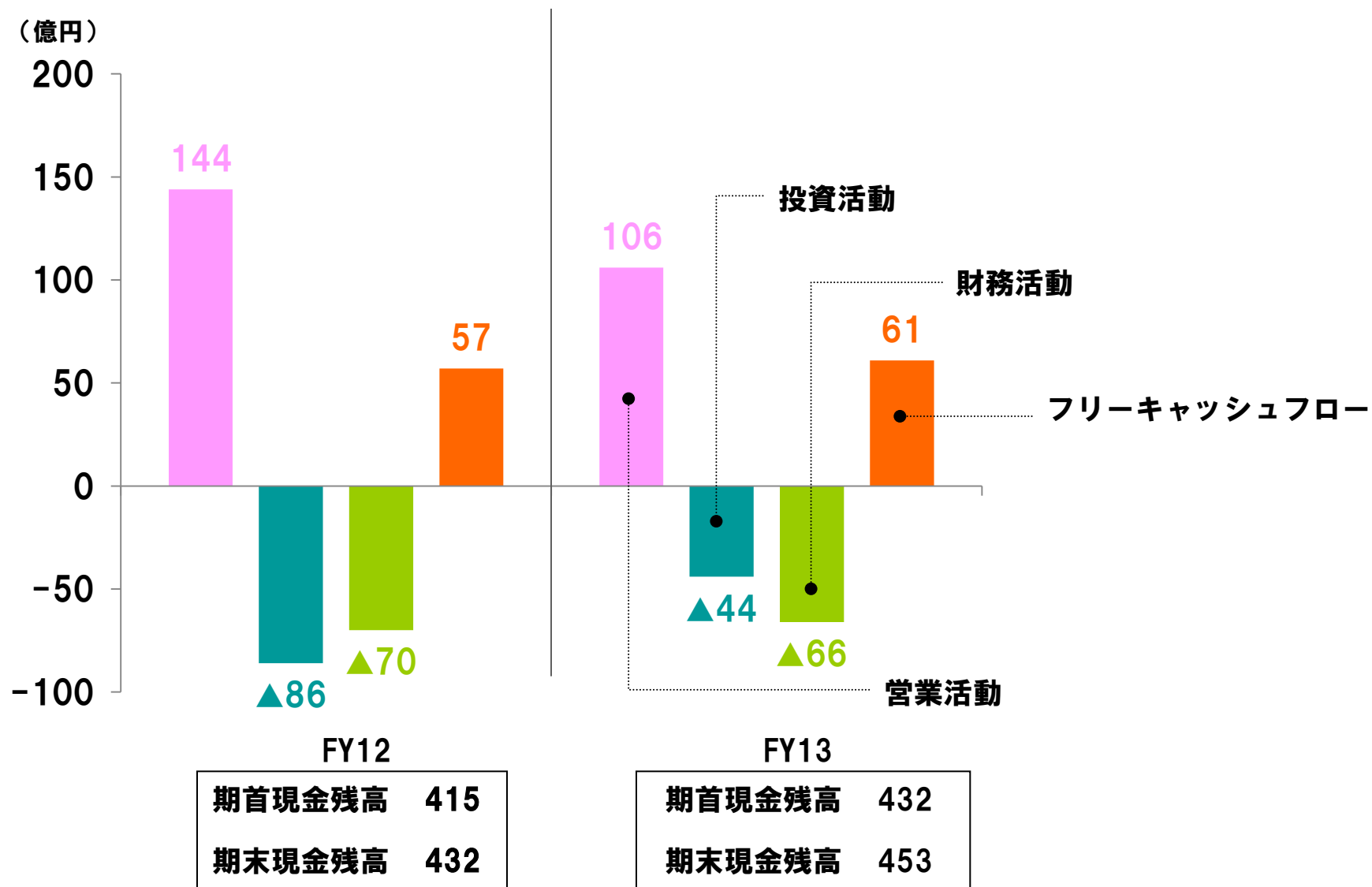
●回転月数(ヶ月)

	2013/3	2014/3
売上債権	3.0	2.8
たな卸資産	3.3	3.0

●自己資本比率(%)

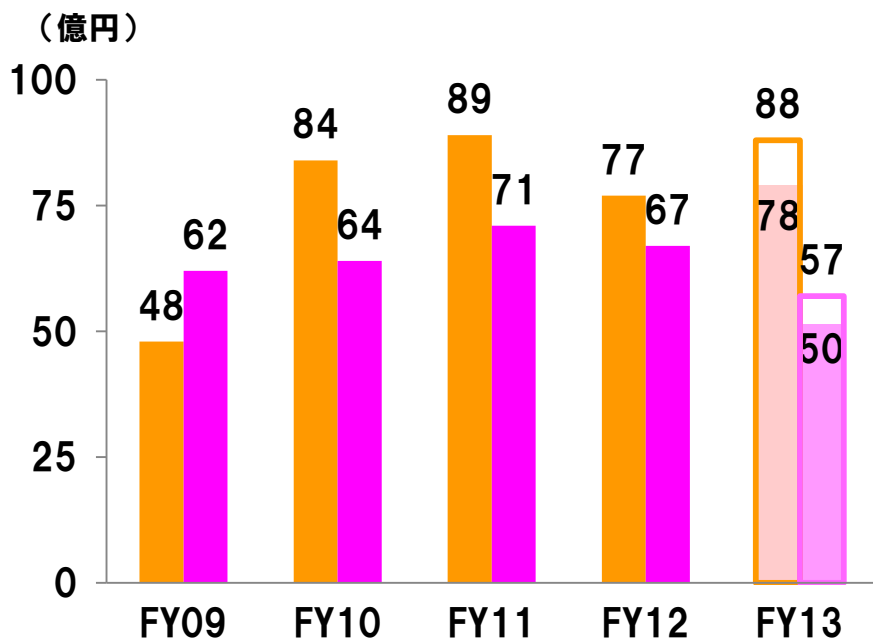
	2013/3	2014/3
自己資本比率	75.9	73.5

キャッシュフロー



◆設備投資額・減価償却費

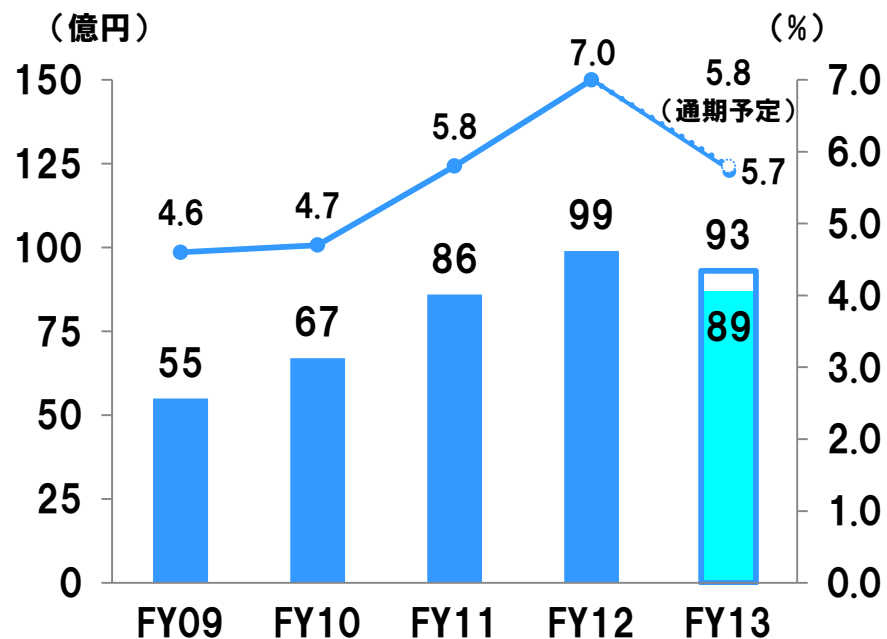
■ 設備投資額 ■ 減価償却費



	1Q	2Q	3Q	4Q
設備投資額	14	11	21	31
減価償却費	11	12	12	13

◆研究開発費

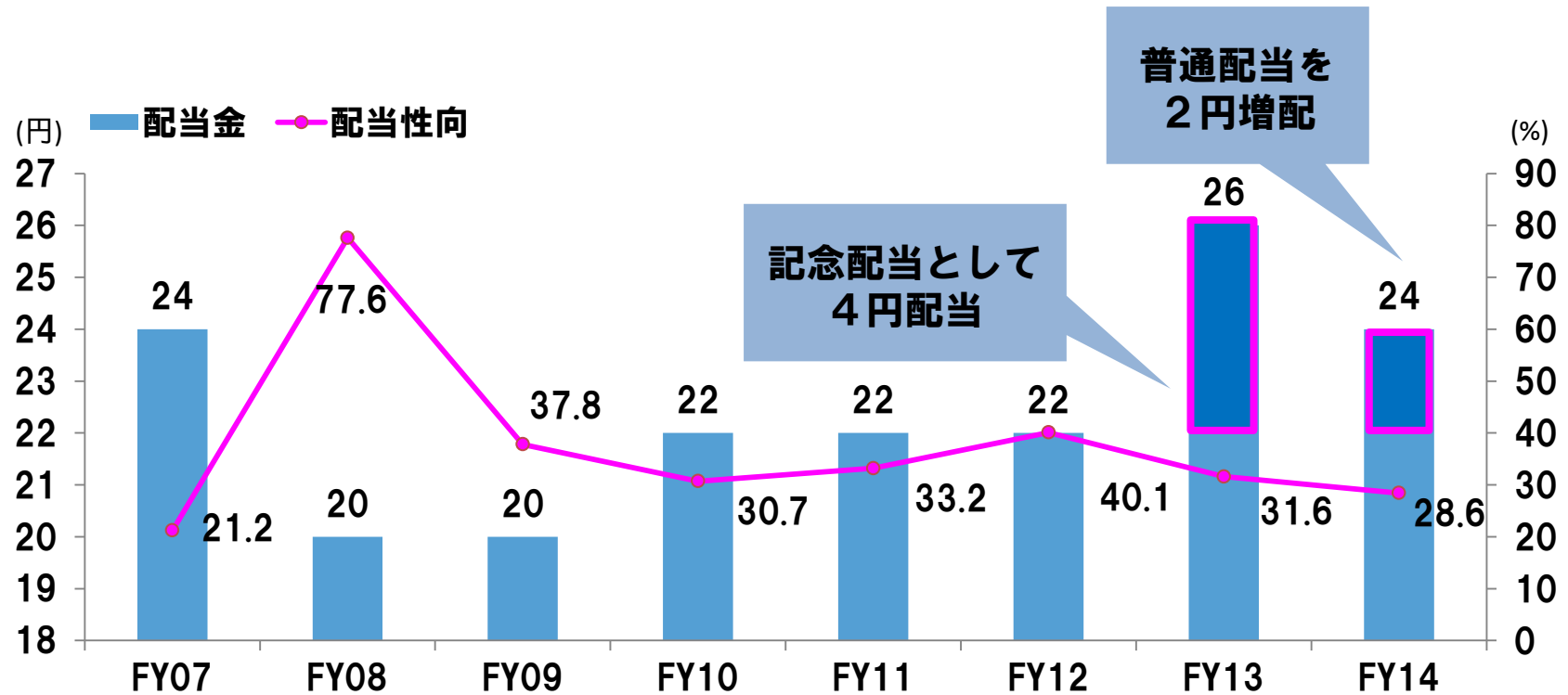
■ 研究開発費 ● 売上高研究開発費率 (%)



	1Q	2Q	3Q	4Q
研究開発費	17	20	24	26

株主還元

◆2013年度配当金（普通配当据え置き、50周年記念4円配当）



◆自己株取得

2014年2月6日～3月20日で株式80万株、総額1,006百万円取得。
今後も機動的に実施。



Thank you
50th Anniversary

これからのウシオ電機

いま、「光」への期待はますます大きくなっています。
先進技術や医療の発展・進化はもちろん、人口増加や環境問題、エネルギー問題など地球規模の課題を解決する答えのひとつが「光」だと私たちは考えています。

光をあかりとして、エネルギーとして。

ウシオは“光のプロフェッショナル”として、
これからも光の可能性に挑戦し続けます

USHIO

本資料に関するお問い合わせ先
ウシオ電機（株）コーポレートコミュニケーション部
（03）3242-1836
contact@ushio.co.jp
<http://www.ushio.co.jp/jp/>